

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年5月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100591号
法人名	医療法人 愛人会
事業所名	グループホーム桜並木
所在地	鹿児島市紫原4丁目30番22号 (電話) 099-802-4312
自己評価作成日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慈愛の精神 すべての人を愛する人間愛のもとに、すべての人の意思を受容し、すべての人の人格及び尊厳をお守り致します。
自立の支援 その人の出来ない事だけを支援し、自立性を高めて頂きます。
社会的役割 私たち職員は、常に入居者と同じ目線に立ち、地域の社会資源となるよう努力します。入居者、家族、地域、ボランティアの方々が入りやすい雰囲気であり、共同生活空間が家庭的で落ち着いた物になるように配慮しています。閑静な住宅街に位置しており、ドラッグストアや公園等もすぐ近くにあるので、買い物や散歩等を楽しむ機会を多く持てるように支援しております。
同系列の協力医療機関とは24時間体制で連携が取れるようになっており、緊急時の対応や、医療的な指示を仰いだりする事が迅速に行なえる体制が出来ている。協力医療機関の看護師長の健康チェックが週3回、主治医による往診が月2回行なわれており、定期的な健康チェックや医療行為等を行なっている。また、必要に応じて訪問歯科診療や訪問マッサージ等も受けられる体制が出来ている。
事故報告書やヒヤリハットの提出を徹底しており、統計を取り事故の内容や時間帯等を分析しており事故の再発予防、事故防止やリスクマネジメントの力を入れている。季節毎の行事や園外活動、レクリエーションにも力を入れており、入居者様への楽しみの提供と共に脳活性化による認知症悪化予防を目標にしている。また、ご家族にも行事の参加を呼び掛け、職員共々行事やレクリエーションを楽しめるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは鹿児島市の高台の住宅街に位置し、リビングからは遠くに桜島を望め、周囲には公園や商店街・学校等があり散歩や買い物に便利な環境にある。母体の医療機関とは24時間緊密に連携が図られ、利用者の健康管理と安全管理には十分に配慮がなされて利用者や家族の安心につながっている。
○介護計画は利用者や家族からの聞き取りとともに、主治医や看護師・職員などの関係者からの意見も取り入れたわかりやすいものを作成している。支援の状況は施設介護経過記録や業務日誌に詳しく記述し、細かく項目設定された「施設ケアアセスメント表」で利用者の現状を数値で評価し、それに合わせて適切に見直し修正している。
○管理者や職員は多くの提案やアイデアを出して、利用者の楽しみにつながるように様々なレクリエーション活動や行事を企画している。ホームでの夏祭りや保育園児との交流、また、動物園や水族館・季節の花見などの外出の際にはご家族の参加も得ている。誕生日のケーキ作りや夏祭りの屋台、ひな祭り時のバイキング、敬老会やクリスマス会等の仕出しの活用、弁当持参の季節の花見、レストランでの食事など、食事が楽しみになるような多くの工夫も行っている。
○各種の記録類は様式を工夫し、職員が情報を共有しやすいようにわかりやすく詳しい記述になっている。職員のレベルアップや資格取得のために多くの研修も計画的に実施されており、それに利用する資料も職員が理解しやすいように管理者自身が工夫して作成している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ．理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所内の見やすい位置に掲示しており、各職員が理念に基づいたケアが出来るように努めている。	ホーム独自の理念と基本方針を掲げて、理念に沿って地域との関わりを大切にしながら日々愛情を持って利用者に接するよう努めている。理念は玄関やホールに掲示し、朝礼や職員会議でその意義を振り返りケアへの反映を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、紫原中央保育園とも交流があり、毎年敬老会の慰問に来て頂いたり、保育園の運動会に招待してもらっている。	町内会に加入し地域の夏祭りや近隣の保育園の運動会に参加し、保育園児にはホームの敬老会に出席してもらっている。また、ボランティアや高校生の奉仕活動、社会人の職場体験学習の受入れも行っている。回覧板によるホームの敬老会やクリスマス会・防災訓練などへの参加呼びかけのほか、日頃より散歩や買い物の際には地域の方々と親しく挨拶や会話を交わしている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	行事や防災訓練への参加、協力を呼び掛けている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様やご家族にも参加して頂き、意見を出してもらい、サービスの質の向上につなげている。また、その進行状況や結果を、次の運営推進会議の際ご家族に報告している。	会議は利用者や家族・地域の公民館長・民生委員・包括支援センターの職員等の参加を得て定期的に開催されている。利用者及びホームの現況報告や行事・問題点等について意見交換が行われ、内容は職員会議でも話し合い、具体的に業務改善や日々のサービス向上に役立てている。また、外部評価の結果についても報告がなされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を依頼し現状報告を行ないアドバイスや意見を交換する機会を設けている。	介護相談員の受入れを行い、市の担当者には入居状況や連絡事項などを定期的にメール連絡している。また、連絡会や各種の研修・制度改正の説明会等での意見や情報の交換のほか、電話や訪問で運営や利用者の状況について確認や相談を行い、適切に助言や対応して頂くなどの連携を図り、サービス向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置、身体拘束ゼロにむけてのマニュアルを基に、勉強会などで理解を深めており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	日中は居室や玄関の施錠は行わず、玄関のセンサーや職員の見守りのもとで、利用者の自由な暮らしを支援している。利用者が外出しそうな場合は、散歩に付き添うなど気持ちに配慮した対応を心がけている。また、身体拘束に関連するマニュアルは整備され、管理者自らが研修用の詳しい資料を作成して、身体拘束廃止委員会や職員会議・朝礼等で繰り返し勉強会や話し合いを行い、職員の理解を深めてケアへの反映が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や勉強会を実施し、正しい知識の習得し、実践している。言葉使いや接し方についての指導も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいらっしゃるため、職員の認識を高めるため、勉強会や研修会への参加を行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書、重要事項の説明を行っている。 入居後も、質問等には随時対応しており、内容の変更があった場合はその都度説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族宛に手紙を書いており、入居者の様子や連絡事項をお知らせしており、ご意見や要望がないかの確認を行っている。また、家族会を開催し意見交換を実施、アンケート等も行っている。	利用者の思いは日々の暮らしの中で、ご家族からはアンケートのほか、来訪時や電話で話しやすい雰囲気づくりに努めて多くの意見を頂いている。また、花見・敬老会時の家族会でも思いや意見の把握に努め、必要な対応は日々の申し送りや職員会議で話し合い、ケアに具体的に反映できるように努めている。ご家族には電話や毎月のお便りで必要な連絡や報告を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、勉強会、ケアカンファレンスを定期的に開催し、各職員の意見を聞く機会を設けている。また、必要に応じて個別面談を行っている。	管理者は朝礼や毎月の職員会議、また必要に応じての個別面談で職員の意見や提案を聞き取るとともに、日頃からコミュニケーションをとりやすい環境づくりに取り組んで積極的に話しかけている。また、各種の研修も管理者自身が詳しい資料を作成して職員のレベルアップを図り、業務及びサービス内容の見直しや改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得に向けた支援を行っている。取得後は給与面もアップする。全職員に（パート含む）賞与がある。残業手当も出しており、職員の意欲を向上させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会、職員会議、ケアカンファレンスを行い、知識、技術の向上を目指した取り組みを行っている。また、外部の研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との勉強会や行事等への参加により、交流の機会を持っている。意見交換や情報提供を行い、質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い、生活歴や生活の状態を把握する。 また、必要に応じて担当ケアマネやかかりつけ病院等からも情報収集をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に、家族からの意向や要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも含めた支援の方法を家族と一緒に話し合いながらケアの方針を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを理解し、今までの生活歴を考慮しながら、その人が個性を発揮し楽しく生活できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、手紙に写真を添えて近況報告をしており、行事等への参加も呼びかけている。家族が気軽に立ち寄れて、なんでも言えるような雰囲気作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や、スーパー等、地域のお気に入りの場所に行く機会を設けている。	利用者のご家族や友人・知人の来訪時には居室でゆったりと過ごせるように支援すると共に、クリスマスや誕生日・母の日などには、電話や手紙・贈り物の取次ぎも行っている。本人との日常会話やご家族からの情報などから、本人が希望するデパート等での買い物、美容室・近隣のドライブ、一時的な帰宅・墓参りなどを、ご家族とも調整しながら可能な限り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事、レクリエーションを共にし、入居者同士が楽しく交流でき円滑な人間関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等により退去されても、お見舞いや面会に行っている。また、家族からの相談も受け付けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で入居者の意向を確認するようにしている。意思疎通の難しい人にも、表情等から思いをくみ取るよう努めている。	利用者個々の担当職員を中心に日々の暮らしを通じて思いや意向の把握に努め、ご家族とも相談しながら本人のペースで自由な暮らしができるように支援している。必要に応じてケアマネやかかりつけの病院からの情報も活用し、職員は内容を共有して本人の希望に添った適切な支援となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、前ケアマネやかかりつけ病院等から情報収集を行っており、必要に応じて問い合わせを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調の変化や生活リズムを把握する。その人の有する能力を吟味しながら、出来る範囲で共同作業を一緒に行ってもらう。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼やカンファレンス時に全員で意見交換を行っている。また、入居者や家族からも話を聞くようにしている。	介護計画は利用者や家族からの意向や希望を聞き取り、主治医や看護師・職員などの関係者からの意見も取り入れたわかりやすいものを作成している。支援の状況は細かく記述した施設介護経過記録や業務日誌を基にモニタリングやカンファレンスを実施し、細かく項目設定された「施設ケアアセスメント表」で利用者の現状を数値で評価し、現状に適応した計画となるように見直し修正している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、日々の生活の様子や本人の言葉等を記録している。いつでもすべての職員が閲覧できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の希望を良く聞き、満足してもらえる支援を提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族の希望により、訪問歯科診療や訪問カット、訪問マッサージが受けられる体制を作っている。また、町内会長や民生委員との話し合いをする機会を持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大半の入居者は協力医療機関の受診、往診を受けているが、本人や家族の希望により、かかりつけの病院を受診してもらっている。	利用者個々の受診経過は十分に把握され、本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関とは24時間体制で連携が図られ、看護師長の週3回の来訪と合わせて、医師の月2回の往診により健康管理がなされている。緊急時や専門医への通院は主に職員が支援し、受診状況や必要な対応は職員等関係者で共有され、家族とも適切に連絡が取られている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師が1名勤務しており、健康管理や状況変化に応じた支援が行えるようにしている。また、協力医療機関から週3回、看護師長による健康チェックを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は病院や家族と連絡を取りながら、現状を把握できるようにしている。また、面会やお見舞いに行く機会も持ち、退院後も安心して戻ってこれるよう配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い意向を確認し、協力医療機関との連携も取りながら事業所で出来ることを検討していく。	重度化や終末期のケアについては、詳細にわたり整理された「看取りに関する指針」により対応方針を説明して同意を得ている。変化する利用者の身体状況やご家族等の思いの変化などに応じて、医師の意見も含めて関係者全員が方針の共有に努めて、必要な対応について話し合い、適切に支援を行っている。また、年に1回は職員に対して緊急時の対応等関連する教育も実施して理解を深めるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応、救急救命についての勉強会を実施している。また、必要に応じて看護師や他職員が駆け付ける体制が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施。消防署の方にも立ち会いを依頼し、評価やアドバイスを貰っている。	年2回のうち1回は消防署の協力を得て夜間を含めた避難・通報・消火訓練を実施している。訓練の際には消防署より、救急蘇生法やAED使用の指導も受けている。マニュアル整備や研修の実施、スプリンクラーや自動通報装置等の設備の充実とともに、地域の住民にも回覧板で訓練への参加を呼びかけている。懐中電灯やラジオ・カセットコンロ等の準備はなされ、食料や飲料水等の備蓄は法人に検討を依頼している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の羞恥心やプライバシーを尊重した支援を行っている。接遇委員会を設置し、勉強会や職員会議で話し合う機会を持っている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、丁寧な声かけや対応を接遇委員会や職員会議での話し合いを通じて繰り返し確認している。職員は日常生活では連携して見守り、利用者の人格や感性を大切に利用して利用者個々のペースに合わせた対応となるように努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に合わせて声かけや意思確認を行っている。可能な限り本人による意思決定を尊重しながら支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力、行動や時間を制限しないように支援している。本人が好きな時に好きな事が出来るよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問理容は月1回来てもらっているが、行きつけがある人はそちらに行ってもらっている。また、買い物外出の機会を持ち、衣類を自分で選んで買う機会を提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食前は口腔体操を行っており、誤嚥の予防をしている。食事時は職員も同じテーブルに着き、話をしながら楽しい雰囲気作りをしている。	利用者と一緒の食事の準備や後片付けなどとともに、会話しながら和やかに食事している。健康状態に応じたメニューや調理方法、誕生日のケーキ作り、ひな祭り時のバイキング、夏祭りの屋台、敬老会やクリスマス会等の仕出しの活用、弁当持参の外出、レストランでの食事など、食事が楽しみになるような多くの工夫も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは病院の管理栄養士に依頼しており、栄養バランスは取れるようになっている。食事量、水分摂取量を毎日記入、その人の状態に合わせて刻みやトロミ剤を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝前に口腔ケアを行っている。また、定期的に訪問歯科診療に来てもらい、治療やケアの方法を指導してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。オムツ使用者についてもカンファレンスで話し合い、極力オムツに頼らない支援を行っている。	業務日誌及びホーム独自に記入方法を工夫した排泄チェック表の活用や誘導・声かけを工夫して、可能な限りトイレでの排泄を支援している。また、適度の運動や水分補給・腹部マッサージなどの支援も適切に行っている。これらはケアプランにも反映させて、本人の自尊心にも十分配慮しながら個々に合わせた対応となるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行い、食事や水分補給、日中の活動等を把握して、極力下剤に頼らない方法を検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	各入居者の希望に合わせて入浴時間を検討している。更衣や洗体は自力で出来る人は行ってもらい、出来ない部分の支援を行っている。	本人の希望や体調・身体機能などに配慮して、安全にも心配りしながら基本的には週2、3回の入浴を支援している。入浴の回数や時間帯にも利用者の希望に柔軟に対応するとともに、ゆったりと会話を交わしながら楽しんで頂いている。入浴を拒否される場合には、時間をかけてゆっくり話すなど、利用者本位の支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣を尊重し、その人のペースで過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセッティングは准看護師が行い、服薬、その後飲ませ忘れや間違いがないか、チェック表を作り確認をしている。服薬後の変化等見られたら、主治医に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事の手伝い等を手伝ってもらっている。レクリエーションは毎日、他に月1回は行事を行っており、楽しんでもらえるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くの公園やドラッグストアに買い物に出かけている。また、季節の行事としてそうめん流しや花かごしま等に出かけている。	利用者の健康状態や天候を見ながら、日頃から散歩を兼ねて近隣の商店での買い物や公園に出かけ、個別に近隣のドライブや一時帰宅・美容室・墓参り・小学校のバザーの見物などを支援している。また、ホームの行事として月に1回は、季節の花見や地域の行事・外食のほか、時にはご家族にも参加頂いて市の福祉バスを利用して動物園や水族館・コスモス見学など、可能な限り楽しく外出できるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が出来る人には、家族の了承のもと自己管理をしてもらっている。その他の人は少額ずつ現金を預かっており、行事や買い物の時自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持っている人は自由に電話をかけてもらっている。それ以外の人は、家族に話がある場合などはホームの電話を使用し直接家族と話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な雰囲気作りのため、日中はレースのカーテンを開け外の光を取り入れるようにしている。また、創作活動で季節に応じた飾りやカレンダーを作り、今の季節が解るようにしている。	リビングは交通量の多い通りに面しているが、たいへん静かであり、また、明るく広く、2階からは遠く桜島も眺められる。壁には職員と利用者で作成した季節感のある作品や行事の写真が飾られ、落ち着いた雰囲気の中でゆったりと過ごせるように工夫されている。温度や湿度・清潔にも十分配慮がなされ、畳のスペースやソファなども配置されて、利用者は思い思いの場所で居心地良く過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士、部屋に遊びに行ったり、一人で本を読んで過ごされたり、リビングでテレビを見て過ごされたり等、自由に居心地の良い場所で過ごしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具、電気製品、飾り物等を持って来て貰い、出来るだけ家に近い雰囲気で過ごせるよう配慮している。	居室にはホームが準備したベッドと洗面台・エアコンが設置されている。本人がこれまで暮らしていた自宅の雰囲気に近づけるように、日用品をはじめとした使い慣れた馴染みのものを自由に持ち込んで頂き、ご家族とも話し合いながら落ち着いて過ごせるような環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの残存能力を見極め、自力で出来ることはなるべく自力で行なってもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ユニットの見やすい場所に理念を掲示し、日々のケアが理念に沿ったものになるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、近隣の保育園等の行事にも参加し、地域との交流の機会を持っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	勉強会や敬老会等の行事に地域の人達にも参加を呼び掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、意見交換やアドバイスを貰い、業務を行なう際の参考にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況報告を定期的にメールしており、その際に連絡事項があった場合添付して送信している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置、勉強会も定期的実施している。身体拘束廃止の意識を持ってもらうよう指導している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や職員会議で虐待についての正しい知識を学び、虐待防止の意識を持ってもらうようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、他事業所との情報交換をしている。勉強会の開催や研修等があれば参加し各職員が理解できるようにしたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせ時や入居申し込み時に重要事項説明やパンフレットを用いて説明し、理解して頂き、入居決定時に再度契約内容の説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者や家族に参加してもらい、意見を頂く機会を設けている。頂いた意見は、職員間で共有するようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	書く職員が職員会議や朝礼で、意見を述べられる機会を作っている。必要に応じて個別面談も行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	極力定時で帰れるよう業務内容を考えているが、行事等により残業になる時は時間外手当を出しているため、職員からの不満はない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には入社時に新人研修を行ない、その他の職員も定期的な勉強会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ参加している。また、他事業所との情報交換を行ない、サービスの質を高めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面会時に情報収集を行ない、本人や家族から要望や不安に思っている事などを傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族からの要望を聞き、可能な限り要望にこたえられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人からよく話を聞き、必要な支援を把握し全職員で共有できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の生活歴を尊重し、自分らしい生活が続けられるような支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への手紙を毎月発送しており、行事への参加も呼びかけている。家族が気軽に面会に来られるような雰囲気作りを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の公園やドラッグストアに買い物に行ったり、馴染みのあるに行ったり等、車での外出も行なっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやお茶の時間等を共にし、円滑なコミュニケーションが取れるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方への面会を行なっている。また、家族からも話を聞く機会をもつよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通して本人から意向を聞きだし検討している。家族からも話をよく聞くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等から情報収集を行ない、利用があった施設や病院からも情報を貰うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	わずかな変化も見逃さないよう気を付け、変わった事があったら記録し、他職員にもしっかり引き継ぐようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンス時に全員で話し合い意見交換を行なっている。本人や家族の意見も介護計画に反映するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者毎、ケース記録に毎日の様子を記録し、朝礼や引き継ぎ時に報告し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や本人の要望、意向を聞きだすようにし、それに沿った支援が出来るよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店や公園などに行く機会を持ち、少しでも地域との交流が出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力医療機関での受診、往診を受けて頂いているが、家族や本人の希望があればかかりつけ病院での受診も出来るよう支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師が1名勤務している。また、看護師長も週3回入居者の健康チェックに来ており、相談にも乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や病院の担当者からこまめに情報収集をするようにしている。面会にも赴き、看護師等からの話も聞くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族、医師を交えて話し合いを行ない、今後どうするか、何が出来るのかを話し合うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行ない、緊急時の対応についての知識と技術を深めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年ごとに消防訓練を実施している。消防署員や防災設備の担当者にも参加してもらい、指導してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心や尊厳を傷つけないよう常に意識し、支援や声かけを行なうよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人が生活や活動を選択、決定出来るよう配慮し、それに沿った支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間や行動には、出来るだけ制限せず自由にしてもらえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	行きつけの美容室がある人は、そこに通ってもらっているが、特にこだわりのない人は月1回の訪問カットで整髪してもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者さんと一緒に食事を摂り、楽しい雰囲気での食事が出来るよう配慮している。また配膳、下膳の手伝いもしてもらうよう声かけを行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた食事形態で配膳しており、摂取量も日誌に記録している。食事量や水分摂取量の少ない人は、看護師長に相談し指示を貰っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回、訪問歯科診療に来てもらっており治療や診察を受けている。口腔ケアも毎食後と就寝前に行なっており、変化が見られたら歯科医に報告している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一日の排泄状況を把握し、各職員で共有しできるだけトイレ誘導を行ない、オムツに頼らない支援を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を記録し、日常の活動量なども把握して、下剤に頼らない排泄を検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日毎に入浴の予定を組んでいるが、本人の希望により時間をずらしたり回数を増やしたりして対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の好きな時間に休んだり、余暇活動を楽しめるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐため、準備、服薬、片付け時の3回チェックを行ない、チェック表に記入するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の趣味や好みを把握し、レクリエーションや余暇活動に取り入れ、他入居者も一緒に楽しめるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣接する公園へ散歩に行ったり、近くの店に行って買い物をに行く機会を作っている。また、毎月1回程度行事を開催し屋外活動を楽しむ機会を提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員で管理しているが、外出時等状況に応じて本人に渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族より電話があった場合は取り次いでおり、また、本人より申し出があった場合はこちらから家族へ電話をかけることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生的で快適な環境作りを目指している。また、創作活動により季節の飾り物等を作成、展示し、季節感を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居心地のいい場所で過ごして頂くよう配慮している。リビングで過ごされる人には、出来るだけ職員も話しかけ、楽しく過ごせるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使っていた家具や家電製品を持って来て貰い、自分が生活していた環境に少しでも近い状態で過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ残存能力を維持できるよう、自立支援を行なっていく。また、安全に過ごせるよう事故防止等の話し合いも行なっていく。		

Ⅴ アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない